

主日礼拝 2021年9月26日(日)

題 『洗礼者ヨハネの死』

テキスト：マルコによる福音書6章：14～29節

今日の聖書箇所は、洗礼者ヨハネに死にまつわる話です。

あまりに残酷で、一度読んだら忘れられないように思えます。

おどろおどろしい残忍極まりない権力者による事件です。

この話は、以後歴史の中で語り継がれ、オスカー・ワイルドの戯曲「サロメ」として世界に広がりました。日本でも1913年(大正2)年12月に帝国劇場で松須磨子がサロメ役で上演されたそうです。サロメの様々な絵画もあります。

さて、イエスの神の国宣教、病人の奇跡などの出来事のうわさがガリヤラの町々村々に広がる中で、「イエスは一体何者なのか」という話が出て来たようです。洗礼者ヨハネ、殺される話から、何が学べるのでしょうか？

14: イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」

ここでヘロデ王とは、王様ではなく、ヘロデ大王の息子の一人で、ガリヤ地方を治めていた領主ヘロデ・アンティパスのことだと言われています。住民は、「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」という者たちもいたようです。

イエスについては、15: そのほかにも、「彼はエリヤだ」と言う人もいれば、「昔の預言者のような預言者だ」と言う人もいた。」のです。「エリヤ」とは旧約聖書で、やがて終末の時が来て、メシア・救い主・キリストが来られる前に、預言者エリヤの再来があるとの信仰が民衆の中にあったのです。イエスがこのエリヤだという人々もいました。16節にありますように、

16: ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首をはねたあのヨハネが、生き返ったのだ」と言ったのです。

ここから17節以下は、ヘロデ・アンティパスが洗礼者ヨハネの首をはねた出来事、その理由が説明されているのです。

この出来事は、

どうして、ヘロデ・アンティパスは洗礼者ヨハネの首をはねたのでしょうか？

以下の聖書を読めばわかるのですが、この中に権力者や人間の心の深い部分にある暗い部分、罪、悪を思います。宗教改革者のカルヴァンは、「神学とは、神を知り、人間を、自分を知ること」との意味のことばを彼が信徒教育のために書いた本の最初に記しています。

なぜ、ヘロデ・アンティパスは洗礼者ヨハネの首をはねたのでしょうか？

17: 実は、ヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアと結婚してお

り、そのことで人をやってヨハネを捕らえさせ、牢につないでいたのです。洗礼者ヨハネは、正義の人で、気性激しく、間違っていることはたとえ相手が誰であれ、王であっても責め立てたのです。旧約聖書の預言者を思います。諸説あるようなのですが、実はヘロデ・アンティパスは、正式に離婚せず、自分の兄の妻ヘロディアを奪って結婚していたとも言われています。この行為は、旧約聖書のレビ記18章16節、20章21節の律法によれば、近親相姦の罪で律法違反でありゆるされないことでした。

18: ヨハネが、「自分の兄弟の妻と結婚することは、律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。

ヨハネはヘロデ・アンティパスを厳しく非難したのです。

19: そこで、ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが
できないでいた。このヘロディアが問題だったのです

ヘロデ・アンティパスの優柔不断な心が問題をこじらせて行きます。

ヘロデは、本当は、ヨハネを殺すことまでは考えてはいなかったのです。

20: なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、
彼を恐れ、保／護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながら
も、なお喜んで耳を傾けていたからである。

ヘロデの心の複雑さです。人間の心の闇の部分覗き見る思いです。

21: ところが、良い機会が訪れた。

これは、ヘロデの妻、ヘロディアにとって良き機会ということですよ。

ヘロデが、自分の誕生日の祝いに高官や将校、ガリラヤの有力者などを招いて宴会を催すと、そこにヘロディアの娘が入って来て踊りをおどり、ヘロデとその客を喜ばせたのです。「ヘロディアの娘」これがサロメと呼ばれます。

サロメの父親は誰なのかは実は不明です。

そこで、ヘロデは少女に、「欲しいものがあれば何でも言いなさい。お前にやろう」と言い、

更に、「お前が願うなら、この国の半分でもやろう」と固く誓ったのです。

ヘロデはその場の雰囲気か酒の勢いか、大きくでたわけです。

「お前が願うなら、この国の半分でもやろう」領土は時の支配者ローマ帝国のものですから実際はそんなことはできないのですが、ヘロデは大見得をかけたのです。このヘロデの言葉に、

24: 少女が座を外して、母親に、「何を願いましょうか」と言うと、

母親は、「洗礼者ヨハネの首を」と言った。サロメを人前で躍らせたのも、この母親の魂胆があったからではないとも思いたくなります。ヘロディアは自分の願っていたことを、娘を使って行おうとしたのでしょうか。25:早速、少女は大急ぎで王のところに行き、「今すぐに洗礼者ヨハネの首を盆に載せて、いただきとうございます」と願います。

娘サロメの母ヘロディアのことばに従う無邪気さが恐怖を覚えます。すると、26:王は非常に心を痛めたが、誓ったことではあるし、また客の手前、少女の願いを退けたくなかった。本当はヘロデは、ヨハネを殺したくはなかったのですが、「誓ったことではあるし、また客の手前、」で自分の本心を捨て、ヨハネを首をはねるのです。時代は変わっても、今でもこの世では得に権力者の間に起こることかもしれません。

27:そこで、王は衛兵を遣わし、ヨハネの首を持って来るようにと命じた。衛兵は出て行き、牢の中でヨハネの首をはね、

28:盆に載せて持って来て少女に渡し、少女はそれを母親に渡した。

わたしは今日の聖書箇所を何度も読む中で、

毎週礼拝で告白する使徒信条の中に、主イエスのことを「ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ」とあることを思いました。ローマ総督ピラトも

本心はイエスを殺すことはしたくなかったのです。

時のユダヤの権力者を中心とする扇動者たちの声に負けて、イエスの十字架刑を決定したのです。イエスの受けた十字架はイエスの愛そのものです。神の子イエスが自分の後から来ることを人々に知らせたのは洗礼者ヨハネでした。またイエスの十字架の前に、残虐な死を遂げたのもヨハネでした。

考えて見るとヨハネは、この世の、闇と悪と罪の支配する中を生き、

最後まで救い主、キリスト・イエスを指し示す1本の指として毅然として使命を持って生きたのだと思わされます。神さまが遣わされた洗礼者ヨハネのことを深く思います。29:ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、やって来て、遺体を引き取り、墓に納めた。

わたしたちも、教会もヨハネのようににはできなくても、

闇と悪の中、人間のどろどろとした罪を贖ってくださった愛と平和の源である救い主イエスに感謝し伝える者たち、指し示す者たちでありたいと思わされます。ヨハネやイエスをこの世界に遣わしてくださった神さまの人を救う大きな愛の計画に感謝したいと願います。

◆洗礼者ヨハネ、殺される

- 14:イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」
- 15:そのほかにも、「彼はエリヤだ」と言う人もいれば、「昔の預言者のような預言者だ」と言う人もいた。
- 16:ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首をはねたあのヨハネが、生き返ったのだ」と言った。
- 17:実は、ヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアと結婚しており、そのことで人をやってヨハネを捕らえさせ、牢につないでいた。
- 18:ヨハネが、「自分の兄弟の妻と結婚することは、律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。
- 19:そこで、ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。
- 20:なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保／護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである。
- 21:ところが、良い機会が訪れた。ヘロデが、自分の誕生日の祝いに高官や将校、ガリラヤの有力者などを招いて宴会を催すと、
- 22:ヘロディアの娘が入って来て踊りをおどり、ヘロデとその客を喜ばせた。そこで、王は少女に、「欲しいものがあれば何でも言いなさい。お前にやろう」と言い、
- 23:更に、「お前が願うなら、この国の半分でもやろう」と固く誓ったのである。
- 24:少女が座を外して、母親に、「何を願いましょうか」と言うと、母親は、「洗礼者ヨハネの首を」と言った。
- 25:早速、少女は大急ぎで王のところに行き、「今すぐに洗礼者ヨハネの首を盆に載せて、いただきとうございます」と願った。
- 26:王は非常に心を痛めたが、誓ったことではあるし、また客の手前、少女の願いを退けたくなかった。
- 27:そこで、王は衛兵を遣わし、ヨハネの首を持って来るようにと命じた。衛兵は出て行き、牢の中でヨハネの首をはね、
- 28:盆に載せて持って来て少女に渡し、少女はそれを母親に渡した。
- 29:ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、やって来て、遺体を引き取り、墓に納めた。